



地域の高齢者が中心となって切り盛りする「長浜食堂」が4日、大分市錦町にオープンします。

①食堂を運営するNPO法人理事長の釘宮さんがこの食堂を発案したのはどんな理由からでしょう？

老人会の活動に参加する中で「元気な高齢者が多い一方、近所付き合いがなく家に引きこもる人もいます」と感じたのがきっかけ。「調理が面倒なとき、寂しいときに誰もが気軽に集い、支え合う場をつくりたい」と構想を練った。

②食堂ではどんなメニューが提供されますか？

季節の食材を使った家庭料理を提供。焼き魚、カレーなどの日替わり定食のほか、チキン南蛮定食やハンバーグ定食も。

③配膳と案内を担当した人、食事をした人はどんな感想を話していましたか？

「慣れない作業に手間取ったが、地域の皆さんとの触れ合いがうれしい」「普段着で利用できるのがいい。今度は近くの錦温泉に入った後に寄ろうかな」

④運営するNPO法人がこの取り組みを通じて目指すものは何でしょう？

高齢化が進む都市部の新しいコミュニティーモデル。

大分市に きょうオープン



4日にオープンする長浜食堂。大分市錦町

営業は午前11時半～午後2時。水曜定休。問い合わせは☎097・533・1177。

【大分】地域の高齢者が中心となって切り盛りする「長浜食堂」が4日、大分市錦町にオープンする。地元のお年寄りらに手厚い温かい食事と会話を楽しんでもらい、収益は町づくりの財源にする。スタッフは「孤食を防ぎ、出会いや生きがいづくり、居場所づくりの場にした。地域外の人でも大歓迎」と張り切っている。

高齢者による 高齢者の食堂

スタッフ「地域外の人でも歓迎」



アットホームな雰囲気店内。錦町の高齢者が調理や配膳、接客を担当する

錦町1丁目自治会の工藤章英会長(73)は「地域活性化の起爆剤になれば」と期待。同法人は「高齢化が進む都市部の新しいコミュニティーモデルを目指したい」と話している。(藤沢香)

錦町の住民らでつくるNPO法人本浦れ日(釘宮馨理事長)が運営。平均年齢75歳の13人が有償ボランティアとして調理や配膳、接客に当たる。建物は社会福祉法人博愛会(同市)が所有。地域貢献活動の一環として無償で貸し出す。前市長の釘宮理事長(72)が発案した。老人会の活動に参加する中で「元気が高齢者が多い一方、近所付き合いがなく家に引きこもる人もいる」と感じたのがきっかけ。「調理が面倒なとき、寂しいときに誰もが気軽に集い、支え合う場をつくりたい」と2年前ほど前から構想を練ってきた。季節の食材を使った家庭料理を提供する。市食生活改善推進協議会の桜井キヨさん(76)＝同市横瀬＝が監修した。焼き魚、カレーなどの日替わり定食のほか、チキン南蛮定食やハンバーグ定食といったメニューがあり、税別637円から。いずれも惣菜8～10品のバイキングが付く。長浜校区在住の70歳以上は全品100円引き。2日に内覧会があり、校区住民らを招待した。注文を間違えたり、運ぶのに時間がかかったりと小さなハプニングもあったが、スタッフも客にもよか。配膳と案内を担当した植田透さん(71)は「慣れない作業に手間取ったが、地域の皆さんとの触れ合いがうれしい」。食事をした長浜町の中谷経代さん(73)は「普段着で利用できるのがいい。今度は近くの錦温泉に入った後に寄ろうかな」と喜んだ。食堂奥にはサロンがあり、2階は博愛会が運営する障害者グループホーム。地域の子どもたちとの交流も計画している。